

張 淦(チヨウ・カン)さん / 北海道教育大学 函館校
Mr. Zhang Gan / Hokkaido University of Education HAKODATE

<外国人研究者プロフィール Plofile>

国籍: Nationality:	中国 / China
日本留学時の滞在期間: Period of Stay During Studying in Japan:	1995年5月20日 ~ 2002年3月30日 May 20, 1995 - Mar 30, 2002
日本留学時の大学: Educational Background In Japan:	北海道教育大学函館校(教育学 研究科) Hokkaido University of Education HAKODATE
専攻分野: Major Field:	学校教育 School Education
現在の所属/職位: Present Institution / Status:	天津外国語学院 助教授 Tianjin Foreign Studies University



張 淦さん
Mr. Zhang Gan

<研究報告 Folloe up Reserch Fellowship>

受入研究者氏名: Research Adviser:	遠藤 純代教授 Professor Endo Sumiyo
受入れ期間: Reserching Period:	2010年7月20日~2010年10月15日 Jul 20, 2010 - Oct 15, 2010
研究課題: Theme of Research:	中国の学校選択による教育の格差と日本の地域就学—保護者及び教師の期待と児童・生徒の心理状態 A Comparative Study between Selection of School in China and Enter Regional School in Japan— mind of School Students caused Expectation of Parents/Guardians and Teachers

■研究概要 Outline of Research

中日両国の教育現状を検討するために、中国の学校選択による教育の格差と日本の地域就学について比較することにした。まず、関連文献の収集と検討、北海道南部の小・中学校教員や保護者へのインタビューなどを通して、日本の教育の現状を把握した。続いて、中国の青少年教育センターで行われたアンケート調査の結果と、日本の福島県で実施された調査を比較し、考察した。両国の保護者や教師が子どもの学歴、学業成績、家庭学習などに抱く期待、および子どもが授業、教材、勉強時間、保護者などに抱く期待を検討した。



北海道教育大学附属函館幼稚園での国際交流
International Friendship in Hokkaido University
of Education HAKODATE Attachment
Kindergarten2

■研究成果 Results of Research



北海道教育大学附属函館幼稚園での国際交流1

International Friendship in Hokkaido University of Education HAKODATE Attachment Kindergarten1

今回の短期研究を通して、中日両国の小・中学校の状況を把握し、比較することができた。

- 1、中国の学校の機能は学科勉強が中心になっていることに対して、日本の学校は勉強と部活動の両方の機能を果たしていること明らかになった。この背後には保護者及び教師の期待が反映されている。
- 2、中国では、学校選択により、日本と比べて早い段階(中学)から教育の格差が生じている。
- 3、中国の保護者が学歴に対する期待は、日本より高いことが明らかになった。
- 4、中国の保護者の学業成績に対する期待は高く、子どもの宿題や補習に時間をかけている。
- 5、中国の子ども達の通学時間は学校選択が主な理由で日本の小・中学生より長い。
- 6、中国の子ども達では授業に対する満足度が年齢と共に低下しているが、より実践的、豊かな授業を求めている。
- 7、中国の子どもはより基礎的な能力の養成、問題解決能力を培う教材を期待している。

その他、日本文化に関する研究も進行し、資料収集もできた。今後の研究に生かし、中国の日本に対する理解の面においても貢献できればと考えている。

■日本留学の思い出 Memories of Studying in Japan

初めて函館という町に着いた時、言葉も日本の習慣もほとんど分からなかった私が、今、振り返ってみると、函館は私の人生にとって大変重要な意味を持っています。日本語をはじめ、専門知識、地域との交流を通じていろんな社会的な勉強の地にもなっています。最初、日本語を勉強するときは大変ストレスのように感じていましたが、先生方の優しい気持ちを受け止め、だんだん日本語と親しくなってきました。また、大学の日本語教室も国際交流の場にもなっていました。そこで、各国の留学生が自分の意見を出し合って国際理解が深まることが今でも時々思い出します。また、日本語の先生の好意でちょっとした旅行や登山などを通じて日本人の生活スタイルも徐々に理解できるようになりました。さらに、人生の初体験もいくつかあり、生涯にも有益なことになっています。その中の一つはスキーで、北海道は雪が多いとのイメージですが、デメリットばかりではなく、スキーを楽しむことは大学の先生や多くの友人達のおかげです。スキーを通じて、自然とのふれあいができ、自然を愛する日本人の気持ちをより深く理解し、自然環境についても考え始め、また、精神的な面においても鍛えられました。そのおかげで、生涯スポーツの一つにもなっています。このような自然に恵まれる地域で、多くの方々の支援で留学生活を送りました。函館は自分にとって第二の故郷であり、たくさんの思い出が函館という空間に点在しています。



地域との交流

Cultural exchanges in HAKODATE